


1. めざすまちな姿

キーワード	安心	みんなが安全に、不安なく生活している	
生活課題 (関連施策)	1 (1.12)	大気汚染、ばいじん、汚臭がなく、空気がきれいである	

2. 指標の推移

指標	指標のめざす方向	H14	H15	H16	H17	H18	H19	めざそう値H19	めざそう値H24	
1 (32)	↘	20歳以上の特定疾病患者数(人)							500	490
		521	↗ 545	↗ 558	↘ 548					
2 (1)	↘	降下ばいじんの量(t/km <sup>2</sup> 月)							4.0	3.5
		4.4	↗ 4.7	↘ 4.6	→ 4.6					
3 (2)	↗	大気汚染基準値の達成率(%)							80	90
		73	↗ 80	→ 80	↘ 75					

3. 指標のコメント

1	△	2年間は悪化傾向であったが、H17年度ようやく約1.8%の減少となった。しかし、このまま推移すればめざそう値達成は難しい。
2	△	H15年度以降、数値上ではほとんど横ばいである。しかし、愛知県全体と比較すると大きくかけ離れている。このままではめざそう値達成は難しい。
3	×	せっかく80%まで改善されていたが、H17年度には75%に低下した。


4. 生活課題・指標に関連する情報

<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海市の20歳以上の特定疾病患者認定者は、H15年181人、H16年197人、H17年は217人である。</li> <li>・近隣市の降下ばいじんの平成17年度平均値 大府市 2.96 (t/km<sup>2</sup>月) 知多市 5.34 (t/km<sup>2</sup>月) 半田市 3.24 (t/km<sup>2</sup>月) 瀬戸市(市役所) 1.76 (t/km<sup>2</sup>月)</li> <li>・降下ばいじん対策として、企業においても環境ネット・集塵機の設置、散水など対策は打っている。</li> <li>・大気汚染についてH17年度まちづくりアンケートに見られるように、市民から不安、不満が多く寄せられていることを注視すべきである。</li> </ul>
---

5. 生活課題の評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの指標とも、達成数値は不十分である。改善の為、企業においても一層の提言努力を必要とするが、行政の指導、市民の監視を継続すること。</li> <li>・降下ばいじんの発生源が企業によるものか、気象条件、自動車走行によるものか特定できていない。</li> <li>・企業においても一応の努力は認めるが、市民の不安は大きい。生活課題としては不十分と評価する。</li> </ul>
---

1. めざすまちな姿

キーワード	快適	さまざまなサービスが便利に使い、気持ちよく暮らせる環境が整っている	
生活課題 (関連施策)	14 (3)	まちや公園にごみが落ちていない	

2. 指標の推移

指標	指標のめざす方向	H14	H15	H16	H17	H18	H19	めざそう値H19	めざそう値H24	
32 (6)	↘	道路や公園にごみが目立つと思う人の割合(%)							50	40
		62.9	↘ 60.5	↘ 60.0	↘ 55.9					
33 (7)	↘	公園のごみの回収量(t/年)							110	95
		-	128	↗ 143	↗ 144					

3. 指標のコメント

32	○	近年横ばい状態であったが、H17年度はごみが目立つと思う人の割合が4.1%減少した。
33	×	めざそう値に反して、年々増加傾向にある。

4. 生活課題・指標に関連する情報

<p>ごみの公園に関する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大府市 10数年前から市内の都市公園にはごみ箱の設置を廃止。1時間に1回放送で持ち帰りの呼びかけをしている。看板での持ち帰り案内やインターネットの公園案内にも明記。週1、2回シルバー人材に園内清掃を依頼している。</li> <li>・知多市 地域住民に公園の管理を委託している。ごみ箱は設置していない。</li> <li>・半田市 約20年前からごみ箱の設置を廃止。園内放送や看板で呼びかけている。イベントの時などは、職員、公園管理人、清掃委託業者で対応している。</li> <li>・常滑市 平成16年度にごみ箱を撤去。ごみの持ち帰りを呼びかける看板を設置している。</li> <li>・東浦町 5年以上前から都市公園にはごみ箱の設置を廃止。ちびっ子公園、児童遊園では、清掃は地域住民に委託。看板で周知している。</li> <li>・東海市 新しい都市公園ではごみ箱の設置はしない方針で進めている。</li> </ul>
--

5. 生活課題の評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度も「空き缶などごみ散乱防止条例」に基づき「ごみ散乱重点地域」が指定されているが、依然として車からのポイ捨てや不法投棄の減少は困難である。</li> <li>・市民一人一人のモラルの向上を図る方策も必要と考える。</li> <li>・公園のごみの回収量は増加している。近隣市町ではそれぞれの対応をして公園のごみ箱を廃止している。公園のごみ箱に生活ごみを持ち込む人もあり、東海市も既存の公園のごみ箱のあり方について、緊急に対応策を考えることが必要であり、生活課題は不十分と評価する。</li> </ul>
--

平成17年度 施策の進み具合一覧表(生活環境)

成果指標の変化の凡例  
 ○・・・数値が改善したもの  
 △・・・数値に変化がないもの  
 ×・・・数値が悪化したもの  
 —・・・比較のできないもの

現状値(H17)の基準値に  
 対しての変化

現状値(H17)のH16に  
 対しての変化

市が追加した施策

市が追加した指標

① 施策 [施策主管課] (関連生活課題)	② 施策の評価	③ 単位施策 [単位施策主管課]	④ 単位施策の評価	⑤ 成果指標 (関連まちづくり指標)	⑥ 単位	⑦ 目指す方向	⑧ 基準値 (H14)	⑨ 現状値 (H15)	⑩ 現状値 (H16)	⑪ 現状値 (H17)	⑫ 指標の 変化1	⑬ 指標の 変化2	⑭ 5年後 めざそう 値(H20)	⑮ 10年後 めざそう 値(H25)	⑯ 成果指標の増減分析
1 (1) きれいな空気を保全する [生活環境課]	大気汚染のうち降下ばいじんの量は風向・風速の気象条件に影響されるので、企業の対策が目に見えた効果として現れていないが、引き続き対策の強化を指導するとともに監視を継続し、その効果を見守る。 また、大気汚染物質のうち光化学オキシダントは全国的にも達成率が低い、原因の一つである揮発性有機化合物(VOC)の排出抑制制度が施行されたので効果を期待する。	1 大気汚染を監視する [生活環境課]	降下ばいじんは、北西風の冬季に多くなる傾向があり、県・市は企業に対して構内ヤード及び道路への散水、道路の清掃、ばい煙発生施設からのばいじん排出対策等を指導しており、また企業も高さ20mの環境ネットを順次設置しているため、その効果を見守りたい。 大気汚染基準値については、二酸化硫黄・窒素酸化物は環境基準に達しているが、浮遊粒子状物質・光化学オキシダントは、気象条件等の影響もあり、改善が進まず環境基準の達成率は横ばい状態が続いている。	1 (2) 降下ばいじんの量	t/km <sup>2</sup> ・月	↘	4.4	4.7	4.6	4.6	×	△	4.0	3.5	降下ばいじんの量は、企業の事業活動のほか自動車の走行による粉じんの巻き上げや風や黄砂等の気象条件の影響により増加・横ばい傾向である。
		2 きれいな空気を守る [生活環境課]	20年度めざそう値の7%を達成しています。17年度のISO取得事業所数は、26社で前年と比較して3社の増となっている。これは、中小企業ISO認証取得費補助の効果もあり、企業の環境保全に配慮した経営方針が浸透しつつあるものと考えています。	2 (3) 大気汚染基準値の達成率	%	↗	73	80	80	75	○	×	80	90	事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、二酸化硫黄・二酸化窒素は環境基準に達している。 浮遊粒子状物質は15・16年度は環境基準に達していたが、17年度は1局で未達成であった。また、光化学オキシダントは4局全てで環境基準に達していないが、全国でも基準に達している調査地点は0.5%と厳しい状態である。
		3 ISOを取得した企業などの割合	%	↗	4.8	5.7	9.3	10.5	○	○	7.0	10.0	めざそう値は達成されましたが、これは中小企業ISO認証取得費補助の効果もあり、企業の環境保全に配慮した経営方針が浸透しつつあると考えられる。 取得事業所数:23社→26社 事業所数:246社→248社		
2 (2) 生活排水を適切に処理する [下水道課]	下水道普及率は平成17年度末で52.3%と5年後のめざそう値51%を達成したが、今後、浄化センターの高度処理施設の増設が必要となることから、10年後のめざそう値を達成するためには、事業費の増加が避けられない。また、水質の汚れる原因は生活排水の流入による影響が大きいため下水道が整備されることにより改善されると考えられる。	1 下水道を整備して汚水を処理する [下水道課]	平成17年度の下水道普及率は前年度と比較し、1.4%増加し52.3%となった。これは東海町、荒尾町、富木島町で整備済面積が増加したことによるものです。下水道普及率の5年後のめざそう値(51%)は目標を達成するが、周辺他市及び全国的な整備率(全国68.1%・愛知県62.5%)に比較し遅れているため、より一層の整備が求められる。	4 (5) 下水道普及率	%	↗	43.8	47.6	50.9	52.3	○	○	51.0	67.5	平成17年度の下水道普及率は前年度と比較し、1.4%増加し52.3%となった。これは東海町、荒尾町、富木島町で整備済面積が増加したことによるものです。5年後のめざそう値51%を前倒しで達成し、成果は達成されている。
		2 水質を監視する [生活環境課]	河川及び海域とも気象状況(雨)等により測定結果に変動があるものの、下水道整備や汚濁負荷量の発生源ごとに削減目標量を定める水質総量削減計画により改善の方向にあると思われる。	5 (4) 河川のBOD濃度(大田川大宮橋)	mg/ℓ	↘	14.4	8.3	6.2	11.7	○	×	10.0	7.0	大田川周辺の下水道の供用開始はかなり進んでおり改善の方向ではあるが、河川の水質調査は年4回の平均値のため気象状況(雨)等に左右される。
3 (14) ごみが落ちていないまちをつくる [生活環境課]	道路や公園にごみが目立つと思う人の割合がやや減少傾向にあるので、今後とも環境美化を進める。	1 まちの環境を美しくする [生活環境課]	市民、事業者による地域環境美化活動や市臨時職員による道路等公共施設のごみ拾いの実施により、道路や公園にごみが目立つと思う人の割合は、基準値から7%程度改善されているが、依然として西知多産業道路及び北部地区のごみのポイ捨て及び不法投棄等は減少してない状況である。	6 (32) 道路や公園にごみが目立つと思う人の割合	%	↘	62.9	60.5	60.0	55.9	○	○	50	40	道路や公園にごみが目立つと思う人の割合は、徐々に減少傾向(向上)にあるが、西知多産業道路及び北部地区のごみの不法投棄や放置自動車の台数が減少してない。
				7 (33) 公園のごみの回収量	t/年	↘	-	128	143	144	-	×	110	95	公園のごみの回収量は、増加から横ばい傾向にあるため、ごみの持ち帰り等減量化の推進を図る。ごみ箱の設置については、新規の公園は、設置をやめ、既存のものマナーの悪い所は、撤去している。